

2 小学校



No.	テーマ等	人権教育の視点
(3)	だいすきだよ ●教科等／生活	自分と社会についての認識 個性・能力の伸長 ●学年／小学校1年

1 ねらい

- (1) 家族や家庭のよさを感じ、家族が支え合って生活していることに気づく。
- (2) 家族の一員として、男女にかかわりなく自分にできることはやってみようという意欲をもつ。
- (3) 進んで自分の役割を果たし、規則正しい生活を送る。

2 指導にあたって

- (1) 家族と一緒にやっていることやしてもらっていることを振り返りながら家庭の仕事について調べ、家庭のことや家族のことについて考え、互いに支え合って生活していることに気づかせる。そして、男女にかかわりなく、自分も家族の一員としてできる仕事を見つけさせる。
- (2) 自分が決めた仕事名人になれるよう家庭で練習する中で、家族のふれあいのよさを感じ取り、家族のために役に立つという喜びと自信を体感させる。
また、経験をより確実なものにするために、学年合同でチームティーチングを行ったり、ゲストティーチャーとして保護者や地域の方を招いたりして、仕事名人のすばらしい技能や工夫などを学びやすくし、いろいろな体験を通して、家族に対する感謝の気持ちや思いやりの心を育てる。
さらに、家族のよさを表現したり、自分ができることが増えてきたことに気づかせ、自分のことは自分で行い、健康に気をつけて規則正しい生活が送れるようにさせる。

3 指導計画（全8時間）

- (1) 第1次 いえで こんなことを したよ …………… 2時間
- (2) 第2次 しごとめいじんに なろう …………… 3時間（本時第2・3時）
- (3) 第3次 いえでも チャレンジ!! …………… 3時間

4 本時の目標（第2次第2・3時分）

- (1) 家庭でした仕事を、友だちにわかりやすく伝える。
- (2) してみたい仕事を見つけて、挑戦する。

5 準備物

汚れた靴下、たらい、洗剤、物干し竿、衣類、タオル、さつまいも、ピーラー、包丁、ホットプレート、食器、スポンジ、食器用洗剤、模型電話、メモ用紙、ぞうきん、バケツ、ほうき、ちり取り、掃除機など。

4 本時の活動（第2次第2・3時分）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>つぎは、なにの しごとめいじんに なろうかな。</p>	
<p>1 コーナーの種類と場所を確認し、新たにしてみたい仕事を見つける。</p> <p>(1) 教室………電話、掃除 (2) 家庭科室……靴下洗い、料理（焼きいも）、食器洗い (3) ホール………洗濯物干し、たたみ</p> <p>2 各グループ内でメンバーを半分に分ける。</p> <p>(1) Aグループ（仕事紹介 → チャレンジ） (2) Bグループ（チャレンジ → 仕事紹介）</p>	<p>・必要な用具、前時に作成した説明カードなどを準備しておく。</p> <p>・各コーナーの表示は、大きくわかりやすくしておく。</p> <p>・学年合同で実施し、支援する教師の役割を明確にしておく。</p> <p>・事前打ち合わせをしたゲストティーチャーを各グループに配置する。</p> <p>・全員がどちらも体験できるように配慮する。</p>
<p>つたえよう。やってみよう。</p>	
<p>3 友だちに仕事を紹介し、教え合って練習する。</p> <p>・自分のコーナーで、得意な仕事をして見せたり、説明したりする。</p> <p>・友だちの説明を聞いて、教えてもらいながらやってみようとする。</p> <p>・時間の中ほどで、紹介メンバーとチャレンジメンバーを交替する。</p> <p>3 仕事名人になれたか、振り返る。</p> <p>・うれしかったこと ・すごいなあと思ったこと ・家でやってみたいこと</p>	<p>・自信をもって紹介し、教える喜びを感じさせる。</p> <p>・チャレンジしてみようという気持ちを大切にさせる。</p> <p>・できるようになったら、他のコーナーにも挑戦させる。</p> <p>・できるようになった喜びを感じさせる。</p> <p>・友だちのすばらしいところに気づかせる。</p> <p>・仕事をしたときの家族の気持ちを考えさせ、次時への意欲をもたせる。</p>

No.	テーマ等	人権教育の視点
(4)	これって、へん？ ●教科等／道徳・学級活動	理解・信頼 人権の歴史と思想についての学習 ●学年／小学校3・4年

1 ねらい

- (1) 違いを個性として認め合い、多様性を尊重することができる。
- (2) 性別にとらわれず、自分らしさを大切にする。

2 指導にあたって



- (1) 本資料は、性別にとらわれず、自分にとっても相手にとっても、自由にのびのびと生き、自分らしさを大切にすることをねらっている。「女の子と男の子、どこがちがう?」「男の子の色、女の子の色って?」など、問いかけ形式で進行するため、自分の意見を発表したり、話し合いをしたりするのに適した資料である。
また、身近な場面での問題を考える構成になっているため、学級の子どもたちの実態や問題意識に合わせながら、具体的に話し合いを深めていくことが可能である。
さらに、子どもたちは、より身近に自分たちの生活と重ね合わせながら振り返り、友だちと豊かな関係を築きながら、もっと楽しく自分らしく生きていくことのヒントを見つけ出す手がかりとなる資料である。
- (2) はじめに、子どもたちがさまざまな生活場面の中から、感じている「女の子」と「男の子」の違いを発表させる。そして、そのことが、本当にあっていい違いなのかどうかを話し合わせる。その中で、「男の子だから、こうあるべきだ。」「女の子だから、こうでないといけない。」などと決めつけたり、軽蔑したりすることが、一人一人のよさや自分らしさを奪っていることに気づかせる。
また、性別による固定観念にとらわれず、自分らしく、それぞれの個性を大切にしようとする態度を養うとともに、互いの違いを認め合い、違いがあるから楽しい、豊かになれるという価値観を育てる。

3 指導計画（全2時間）

- (1) 第1次 これって、へん? …………… 1時間（本時）
- (2) 第2次 自分のよいところ 発見! …………… 1時間

4 準備物

イメージを想起しやすくするための「男の子」「女の子」の絵

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>「男の子」と「女の子」って、どこが違うのかな？</p>	
<p>1 「男の子」と「女の子」の違いについて、思っていることを自由に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだ ・遊び ・話し方 ・性格 ・好きな物 ・服装 ・色 ・力 <p>2 発表内容について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵などの視覚にうったえる効果的な資料を提示し、関心をもたせる。 ・素直な意見を尊重し、自由に話し合える雰囲気になるよう配慮する。
<p>これって、本当に「男の子」と「女の子」の違いなのかな？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・男の子は、泣いたらダメ？ ・男の子の色、女の子の色って？ ・おしゃべりなのは、女の子？ ・おもちゃ選びで、違いはあるのかな？ <p>3 自分の学級で「おかしい」と思うことはないか、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「力のいる仕事を女の子にやらせるのは思いやりがない。」 ・「男の子は、すぐ暴力をふるって乱暴だ。」 <p>4 学習の振り返りをする。</p> <p>5 次時の予告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめて、「自分発見カード」に自分のよいところを書いて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと自分を照らし合わせて考えさせることで、あてはまる子もいれば、そうでない子もいることに気づかせる。 ・色の例として、12色の紙を用意して、ランドセルの色について考えさせる。 ・性別による固定観念が、その人のよさや個性を否定することにつながることに気づかせる。 ・学級の問題例があればとりあげて話し合い、おかしいことに気づかせたり、互いに相手の立場になって考えさせたりする。 ・本時の学習の感想を書かせる。 ・性別にとらわれず、互いのよさを認め合うこと、新しい発見をすることの大切さに気づかせる。

No.	テーマ等	人権教育の視点
(5)	家庭の仕事をみつめよう	自尊感情の形成 市民意識の醸成
	●教科等／家庭科	●学年／小学校5・6年

1 ねらい

- (1) 家庭には、家族の生活を支えるさまざまな仕事があることを理解する。
- (2) 家族が互いに理解し合い、よりよい家庭生活を送るために、男女が共に責任を担っていくことの大切さに気づく。

2 指導にあたって

- (1) 家庭科は、5年生になってはじめて学習する教科である。学習の入口となるこの單元では、まず家庭や家族について考えさせる。

家庭における仕事の役割分担は、家族の考え方や家族構成によってさまざまである。しかし、どの仕事も、家庭生活を支える大切なものであるが、現実には、家庭生活の運営は「どちらかといえば女性（母親・祖母）」にかたよっている現実がある。家族が協力して仕事を担っていくことが、よりよい家庭生活につながるという気づきが大切である。

- (2) 今まで特に意識することがないまま「家族にしてもらっていた多くの仕事」を、もう一度見つめ直させる。そして、社会の一員として主体的に生きるためには、男女を問わず、日常生活を営むための基本的な能力を身につけることが大切であることを実践を通して気づかせる。

そのため、家庭においても、この学習の趣旨の理解及び協力を得ることが大切である。また、個々の児童の家庭環境等に配慮した学習内容でなければならない。自分が仕事を担うことによって家族から喜ばれるとともに、働く人の苦勞に気づかせたり、仕事をやり遂げた達成感を味わせたりする。

このような経験が、家族への思いやりの気持ちをはぐくんでいく基礎となり、性別による固定的な役割分担への意識を見直していく上でも有意義である。

3 展開例

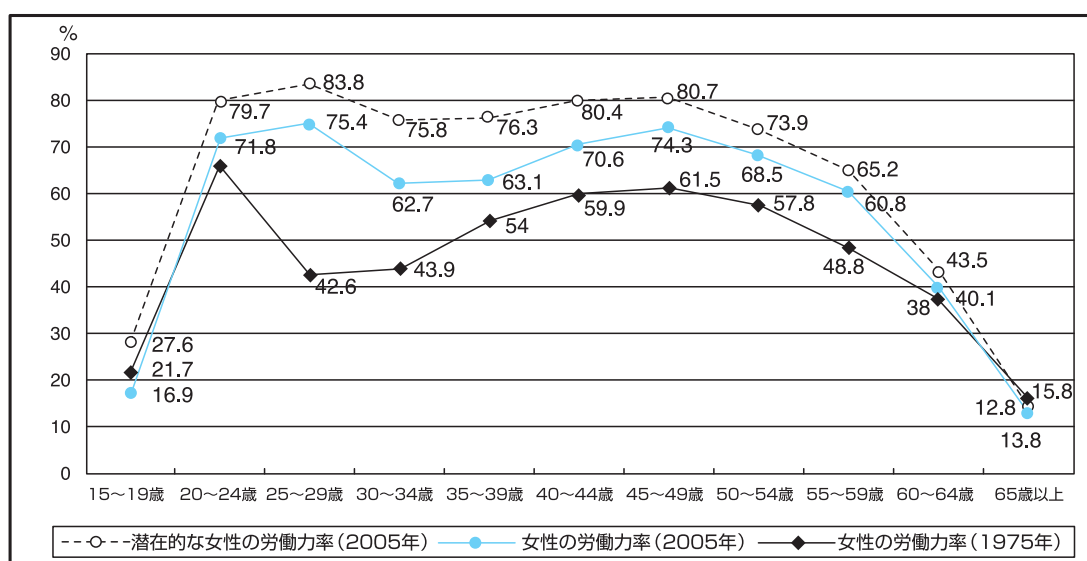
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 自分の一日の生活を振り返り、気づいたことを発表する。 2 自分や家族がしている仕事分担表を見て、気づいたことを発表する。 ・おもにしているのは、お母さんである。 ・お父さんは、あまりしていない。	・家庭の仕事や家族とともに過ごす時間など、家庭とのかかわりから考えさせる。 ・家庭の仕事を、だれが（父・母・自分・兄弟・姉妹・祖父・祖母）しているか、事前に調べさせておき、表にまとめておく。
家庭の仕事について考えよう	
3 家庭の仕事について、役割分担する理由を考える。 4 家族の一員として家庭生活で大切にしていきたいことや、これから自分にできそうな家庭の仕事を考える。	・仕事が誰かに偏っていることがないか、その場合、問題はないか具体的な例から考えさせる。 ・年齢階層別女性の労働力率のグラフを示し、考えさせる。 ・家庭の仕事を長く続けている児童から、頑張っていることや工夫していることを発表させる。 ・記録をとって、毎週発表させる等の工夫をし、継続して取り組めるように励ます。 ・懇談会や学年通信などで、保護者へ取組の趣旨を説明し、協力を依頼する。

家庭の仕事をみつめよう

□ 家庭での仕事分担表

仕事の内容	おもにしている人	ときどきしている人
ふろそうじ		
せんたく		
食事の片づけ		
部屋のそうじ		
食事の準備		
ごみ出し		
買い物		

□ 参考資料:年齢階層別女性の労働力率



資料:総務省「労働力調査」平成17年(2005年)

No.	テーマ等	人権教育の視点
(6)	つくろう！ 未来のCM（コマーシャル）	差別と人権問題についての学習 自尊感情の形成
	●教科等／家庭科	●学年／小学校5・6年

1 ねらい

- (1) 見慣れたテレビCM（コマーシャル・メッセージ）が「男性」と「女性」では、かなり異なるイメージを作り出していることに気づく。
- (2) CMづくりに興味をもちながら、マスメディア情報を主体的、批判的に読み解く力を高める。

2 指導にあたって

- (1) 子どもたちは日々、様々なマスメディアに囲まれた生活を送っている。テレビや雑誌、インターネットなど、マスメディアに接しない日はないといってもよい。特に、テレビから得る情報が、子どもたちの会話の大部分を占めていることも多い。

その中でもテレビCMは、インパクトの強いセリフや何気ない映像で、男性・女性がある一定の型にはまった固定的なイメージで描かれていることが多い。そうした映像を目にすることで、子どもたちは日々ステレオタイプの刷り込みを受けていることも考えられる。

21世紀に生きる子どもたちにとって、マスメディアからの情報をただ表面的に受け止めるだけでなく、それを吟味し、主体的に使いこなす力が必要である。

さらに、マスメディアの情報は、作り手の何らかの価値観を伝えていたり、商業的な意味を持っていたりすることが多いことも理解しておく必要がある。

- (2) そこで、実際に自分たちが日々目にしているテレビCMについてじっくりと見直す機会を持ち、作り手のものの見方や考え方を読み解くことで、隠れたメッセージに気づかせる。そして、知らず知らずのうちに自分の中にイメージ化されている男女の固定的な役割分担意識を再認識させる。さらに、昔と現在のテレビCMを比較し、違いを読み解くことにより、作り手の価値観や隠れたメッセージの変化を考えさせ、自分たちが大人になったときの価値観や願いについて話し合いをさせる。その上で、男女共同参画社会の実現に向け、その思いを伝えるための“未来のCMづくり”に取り組ませる。

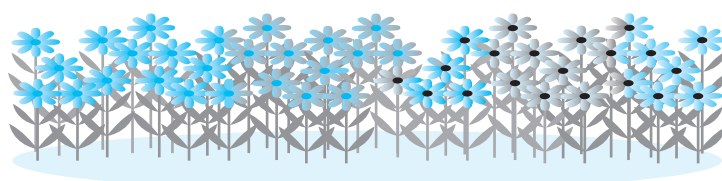
そして、これから目にするテレビCMや新聞、雑誌の広告について主体的、批判的に分析して読み解く力（メディア・リテラシー）を高める。

3 指導計画（全3時間）

- (1) 第1次 テレビCMを調べてみよう。……………（1時間）
- (2) 第2次 未来のCMをつくろう。……………（1時間）
- (2) 第3次 未来のCMを発表しよう。……………（1時間）

4 展開例（第1次分）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 最近のCMのビデオを見て、印象を発表し、課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よく見るテレビCMを2～3本ビデオに収録しておく。 ・登場人物や役柄、セリフなどについて、くわしく調べていくことを確認する。
<p style="text-align: center;">テレビCMを調べてみよう。</p>	
<p>2 テレビCMのビデオをもう一度くわしく調べる。</p> <p>・主な登場人物 ・声の出演 ・歌 ・画面の特徴 ・セリフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに項目を分担して、ワークシートに記入し、視点を明確にする。 ・一つのテレビCMを繰り返し見せて、記録しやすいようにする。
<p>3 結果を発表し、話し合う。</p> <p>(1) テレビCMごとに結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の登場人物が多い。 ・女性は母親や主婦役が多い。 ・男性は働いている場面が多い。 ・説明の声は男性が多い。 <p>(2) なぜそういう結果になるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の種類によって登場人物の性別に偏りがあるのではないか。 ・音楽や人物の動きにも性別による使い分けがされているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの気づきを大切にしながら、男女共同参画の視点に目を向けるよう言葉がけをする。 ・女性と男性では異なる役割を与えられていること、また中心人物が女性か男性かで、音声や音楽、色彩などに違いがあり、異なるイメージがつけられていることに気づくよう話し合いの方向性を明確にする。
<p>4 もう一度、テレビCMを全部通して見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に受けた印象と違うことを実感させる。 ・違うテレビCMへの興味・関心がもてるよう言葉がけをする。



4 展開例（第2次分）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 前時の活動を思い起こし、今日の課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時の学習以降に見たテレビCMで気になったことを発表する。</p> <p>(2) 昔と現在のテレビCMを比べ、気になったところや気づいたことを話し合う。</p>	<p>・前時の終わりに興味づけしておき、いろいろな意見が出やすいようにしておく。</p> <p>・昔のテレビCMで特徴的なものをとりあげ、教師が説明する。</p> <p>・昔や現在のテレビCMから想像される「隠れたメッセージ」を話し合う中で、自分たちの未来の姿や生き方について考えさせる。</p>
<p style="text-align: center;">未来のCMをつくろう。</p>	
<p>2 グループで台本作りをする。</p> <p>(1) 台本を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の種類 ・主な人物 ・セリフ ・場面設定 ・役柄 <p>(2) 見る人に何を伝えたいかを話し合う。</p>	<p>・グループの人数は4～6人とし、一人一役になるよう配慮する。</p> <p>・グループごとに話し合い、約15秒のテレビCMにまとめさせる。</p> <p>・場面設定しにくいグループについては、話し合いに入り支援する。</p>
<p>3 発表方法を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵コンテで説明する。 ・実際に演技する。 ・ラジオCM風にする。 	<p>・場面設定や役柄をしっかりと決め、何を伝えたいのか、作り手の意図をはっきりさせる。</p> <p>・いろいろな発表方法があることを認め、支援する。</p>
<p>4 発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演技練習 ・発表用資料作り（役柄プレートなど） ・説明原稿作り 	<p>・各グループの考えた意図が伝わるテレビCMになるよう支援する。</p>

4 展開例（第3次分）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時の学習について確認する。	・グループのテレビCMの種類によって、あらかじめ順番を決めておく。
未来のCMを発表しよう。	
2 グループでつくったテレビCMを発表する。 (1) 商品の種類、場面設定や主な人物の役柄など、わかりにくい部分については前もって説明する。 (2) テレビCMを見て、気づいたことを発表する。	・発表者は、自分たちの伝えたいことがよく分かるように表現できるよう支援する。 ・聞く者は、昔と現在のテレビCMのどこがどのように違うかを注目して見るよう、視点を明確にする。
3 感想を話し合う。 ・女性が仕事をしている場面設定になっている。 ・食品のテレビCMに男性が出て調理している。	・伝えようとしたことが伝わったか、話し合いの中で確かめさせる。
4 未来のテレビCMづくりをして感じたことを発表する。	・自分の経験や考え方について振り返り、意見を発表する。 【評価】 ・男女共同参画に敏感な視点を持ち、マスメディアの情報に関心がもてるようになったか。



No.	テーマ等	人権教育の視点
(7)	さがそう！ 未来の自分	個性・能力の伸長 自分と社会についての認識
	●教科等／総合的な学習の時間	●学年／小学校5・6年

1 資料

「自分らしい生き方」を考えてみよう

兵庫県立男女共同参画センター・(財)兵庫県人権啓発協会、平成5年(2003年)発行

2 ねらい

- (1) 自分の中にある性別による固定的な役割分担意識に気づき、性別に関係なく、互いの個性を尊重することの大切さを理解する。
- (2) 社会には男女の別なく、いろいろな仕事が存在することを知り、自分の将来に明るい展望をもつ。

3 指導にあたって

- (1) 性別にとらわれず、生き生きと働く人々の姿にふれることを通して、自分自身の中にある性別による固定的な役割分担意識や偏見に気づかせ、自分自身の将来に明るい展望をもたせるのに適した資料である。

また、本単元では、長い歴史の中で作られてきた女性の地位が、社会的性別(ジェンダー)による役割観の中で意図的に作られてきた背景を学習する。その中で、平塚雷鳥さんや市川房枝さんなど、自分たちの置かれた立場がおかしいと気づき、行動を起こしてきた力強い女性たちの生き方にふれることで、いろいろな女性差別を解消してきたことを学び、自分自身の課題として粘り強く解決しようとする前向きな態度に共感させることで、人としてどうあるべきかを考えさせることができる。

- (2) 「女性にあう仕事って?」「男性にあう仕事って?」について考えさせ、性別にとらわれないで「自分らしい生き方」をし、生き生きと働く人の姿にふれさせていく。そして、長い歴史の中で変化してきた女性の地位を知り、それが性別による固定的な役割分担意識や偏見の中で作られてきたものであることを理解させる。

また、女性に対する差別や偏見に気づき、少しずつ世の中を変えてきた女性たちの姿にふれ、一人一人がどう感じ、どう受け止めたのかについて話し合わせる。そこから、自分たちの課題に対して、決してあきらめずに自分たちで解決していこうとする態度についてじっくり考えさせ、これらの学習を通して一人一人に自分自身の将来に明るい展望をもたせる。

4 指導計画(全10時間)

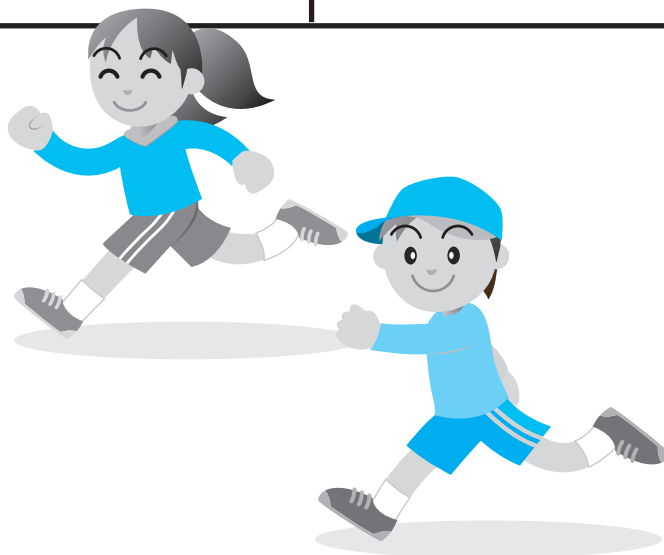
- (1) 第1次 女性に合う仕事、男性に合う仕事ってあるの? ……1時間
- (2) 第2次 差別をなくそうとした運動を知る。(立ち上がった女性、水平社運動) …4時間
- (3) 第3次 人としてどう生きるかを考える。(卒業式にて発表) ……5時間

5 展開例（第1次分）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 仕事は性別によって、「合う」・「合わない」があるのかを考える。</p>	
<p>女性にあう仕事って？ 男性にあう仕事って？</p>	
<p>・危険をともなう仕事は男性向き？ ・小さい子どもやお年寄りの世話は女性向き？</p> <p>2 資料を使って、自分らしく生き生きと活躍する人々の姿にふれる。</p> <p>(1) 感じたことを発表する。 自分の町や身の回りの「自分らしい生き方をしている人」を発表する。</p> <p>(2) 学習する前と後の自分の考えを比べる。</p> <p>3 感想を書く。</p>	<p>・発表しやすい雰囲気を作り、活発に発表させる。 ・素直な思いを引き出させるよう配慮する。</p> <p>・資料のP1～4を参考に考えさせる。</p> <p>・性別にとらわれず生き生きと働く姿に気づかせる。 ・それぞれの地域で、自分らしい生き方をされている方をゲストティーチャーとして招く。</p> <p>・自分の中の思い込みや偏見に気づくように支援する。</p> <p>・児童の実態に応じて、書きにくい児童には思ったことを自分の言葉で話をさせ、それを書くように声をかける。</p>

6 展開例（第2次1時分）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 前時の振り返りをする。 2 思い込みの原因を考える。	・前時に書いた感想文を紹介し、本時につなぐ。
自分たちの中にあった思い込みの原因はなんだろう？	
(1) 思い込みの原因について自分の考えを発表する。 (2) 歴史の中で作られてきた女性の地位を良しとせずに立ち上がった女性たちの行動を知る。 (3) 思ったことを発表する。 (4) 「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」等、社会の動きについて知る。	・「自分らしい生き方」のP9・10を見て、自分がしたい仕事に男女の区別がないことにも気づかせる。 ・女性の地位が少しずつ高められてきたことを理解させ、自分の課題として解決しようと努力したことに気づかせる。 ・思い込みはつくられたものであることを押さえる。 ・児童にとって、理解しやすいようにわかりやすい言葉で説明する。
自分について考えてみよう。	
3 学習してきたことから自分らしい生き方とは何か考える。	・自分らしい生き方を実現するために自分が大切にしたいことを考えさせる。 ・一人一人が自分のこととしてとらえることができるよう支援する。



「自分らしい生き方」を考えてみよう

兵庫県立男女共同参画センター・(財)兵庫県人権啓発協会 平成15年(2003年)発行

保護者のみなさんや先生のために 参考資料

急速に進む少子高齢化のなかで、豊かで活力のある社会を維持していくためには、男女を問わず個性と能力を十分発揮できる環境づくりが欠かせません。このための男女共同参画社会づくりは、21世紀の最重要課題と位置づけられています。

こうしたことから、この小冊子は、21世紀の男女共同参画社会づくりの主役となる若い皆さんが、固定的な性別役割の考え方や、女性の社会進出や男性の家事・育児参加などを妨げる問題について考えてほしいと願って作られました。

以下では、保護者の皆さんや先生方が、お子さんたちとこの問題について話し合い、理解を深めていただく際の参考のために、生活や仕事のなかにある性別役割分業の現状などをご紹介します。

資料 1

男性の多い仕事・女性の多い仕事

女性の働く領域は年々広がってきていますが、まだまだいわゆる「女性職」「男性職」と区別される状況が存在しています。

また会社や団体のなかで、リーダー役となっている女性の割合もまだまだ少数派です。



図表1 男性の多い仕事・女性の多い仕事(2000年)



総務省「2000年国勢調査速報」

資料 2

子どもが考える将来の職業

中学生・高校生はどんな職業に関心を持っているのでしょうか？男女によってやってみたいと考えている職業の傾向は異なり、大人の世界に男性職と女性職が存在するように、男子は技術系の職業、女子は保育士や美容師などが上位にきています。

図表2 青少年(12歳~19歳)の「将来やりたい仕事」のランキング

順位	男子	順位	女子
1	スポーツ選手・プロ選手	1	保育士
2	教師・先生	2	美容師・メイク
3	自動車関係・整備士	3	看護師
4	学者・科学者・研究者	4	教師・先生
5	エンジニア・機械関係	5	福祉関係・介護士
6	公務員	6	漫画家・アニメ関係
7	医師	7	服飾・アパレル関係
8	歌手・ミュージシャン	8	ペット・動物関係
9	警察官・刑事	9	マスコミ関係
10	ゲームデザイナー	10	歌手・ミュージシャン

読売新聞社「全国青少年アンケート調査」(2003年2月22日掲載)